

那珂川市の文化芸術振興の現状と課題

1. 社会潮流

(1) 国の動向

- ・「文化芸術基本法」が平成29年に改正され、「第一次文化芸術推進基本計画」が平成30年に策定。現在、「第二次文化芸術推進基本計画」を策定中（令和5年3月策定予定）。
- ・「文化芸術の本質的価値」と「文化芸術の社会的・経済的価値」が記載され、前者では①国民誰もが文化芸術の鑑賞・参加・創造の機会を享受できること、また②青少年に対する文化芸術教育の注力、後者では観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を求めている。
- ・これに伴い、「改正・文化財保護法」や「文化観光推進法」、「障害者文化芸術推進法」等の法整備が行われ、また「アートと経済社会について考える研究会」での検討等が進められている。
- ・一方、教職員の働き方改革等の観点から、文化部活動の地域移行が検討され、公立中学校の休日の文化部活動について、3年後の2025年度末までに移行する提言が出されている。

(2) 県の動向

- ・令和2年に「福岡県文化芸術振興条例」が制定され、令和3年に「福岡県文化芸術振興基本計画」が策定された。4つの柱として「文化芸術の振興」、「文化芸術に親しむことができる環境づくり」、「障がいのある人の文化芸術活動の推進」、「文化芸術を活用した地域づくりと魅力の発信」で構成され、世界文化遺産の保存・活用に関する取組み、障がいのある人の文化芸術活動の推進に関する取組み、「文化観光推進法」に関する取組みを記載していることが特徴。

(3) 那珂川市の上位計画・関連計画等

- ・「那珂川市総合計画」では、将来像「笑顔で暮らせる自然都市なかかわ～これからも住み続けたい協働のまちを目指して～」の実現に取り組むこととしており、文化芸術については「郷土の歴史や文化に触れる機会を充実させ、ふるさとに対する愛着や誇りを育くむこと」としている。
- ・市内にはミリカローデン那珂川（820席のホールがある文化会館と生涯学習センター、図書館、松口月城記念館、ふれあい広場、屋内プールの複合文化施設）があり、現在リニューアル工事中。また4つの市立公民館、那珂川北中学校特別教室や博多南駅前ビル「ナカイチ」、自治公民館等がある。
- ・裂田溝や安徳大塚古墳・安徳台遺跡、岩戸神楽等、多数の文化財があり、また市民文化祭や南畑美術散歩等の取組が実施されている。

2. 市民意識調査（アンケート）

(1) 18歳以上市民（配布3,000件、回収798件、回収率26.6%）

- ・過去1年間に文化芸術の実践活動がある市民は約15%、直接鑑賞した市民は約51%であり、国（令和3年度文化に関する世論調査）と比べると（活動：約10%、鑑賞：約40%）多い。
- ・活動内容では美術、音楽、生活文化が多く、活動場所は那珂川市内が約68%（内訳はミリカローデンが約53%）。鑑賞内容ではメディア芸術が約45%で多く、自宅鑑賞では音楽とメディア芸術が多い。鑑賞場所は福岡市が約61%で那珂川市内は約42%（内訳はミリカローデンが約95%）、友人・知人からの誘いが約26%で多い。
- ・活動しない理由は「仕事やその他の活動で時間がとれない」が約50%、鑑賞しない理由は「仕事やその他の活動で時間がとれない」と「コロナ禍で人混みを避けるため施設に行くことを諦めた」がそれぞれ約40%。
- ・文化芸術環境（活動・鑑賞）への満足度について、全体的に「ふつう」が多いものの、不満が満足より多く、特に交通利便性は不満・やや不満の合計が活動：約31%、鑑賞：約32%。
- ・文化芸術のボランティア活動をしていない市民が約69%（不明・無回答を加えると約95%）。
- ・文化芸術施策を通じて、「市民が文化芸術を鑑賞する機会や活動に参加・体験する機会が身近にあるまち」や「文化芸術とふれあう機会を通じて豊かな感性を持った子どもが育つまち」を期待する回答が多い。
- ・文化財については、「文化財の活用（歴史的建築物、史跡、地域に伝わる祭りや行事など）」を求める市民が約39%いるが、「文化財や文化資源、市民活動を目当てに観光客が来訪するまち」を期待する市民は約21%と少ない。
- ・ミリカローデンについては、「市民が文化芸術に触れる（鑑賞など）ことができる機会が充実した場所」を期待する市民が約70%で多い。また、「学校教育」との連携を期待する市民が約47%。
- ・市民文化祭の認知度は約63%と多いが、参加・鑑賞したことがない市民が約53%と過半数を超えている。
- ・0～10点の11段階で市民のウェルビーイング状態を評価したところ、現在の幸福度は平均点6.98、現在の健康状態は平均点6.60、現在の社会的つながりは平均点5.89となっている。

(2) 子ども（未実施）

(3) ミリカローデン来館者（未実施）

3. 文化芸術団体調査（ヒアリング）

(1) 文化芸術団体（11団体）

- ・市内の文化芸術活動は盛ん・充実している、頑張っているという意見がある一方、改善していく余地があるという意見もある。
- ・文化芸術を鑑賞する機会は、大半が少ないと意見している。
- ・自団体活動上の課題として、高齢化と会員の確保が挙げられている。また、場所の確保やコロナ禍での感染防止に係る意見もある。
- ・他団体との交流機会について、各種イベントや市民文化祭等で交流している団体がある一方、交流がない団体もある。
- ・文化芸術政策への期待としては、歴史を活かすこと、情報発信・PRに関すること、子どもや障がい者に関すること、文化資源を観光に活かすこと、後継者育成に関することが挙げられている。

(2) 中間支援団体（4団体）

- ・市内の文化芸術活動は、ミリカローデンだけでなく中央公民館や地区公民館でも取り組まれていること、子ども向けのジュニアダンスが増加していることへの意見がある。
- ・文化芸術を鑑賞する機会は少ないという意見が多く、ミリカローデン以外での鑑賞機会が少ないことを指摘する意見もある。また、歴史資料館が市内にないことに関する意見もある。
- ・自団体活動上の課題として、南畑美術散歩については当初の目的をある程度達成し、次の目標が課題になっている。ミリカローデンについては、職員数の確保・増加や職員の専門性の向上が課題となっている。また、コロナ禍で事業が中止になり、コミュニケーションの機会が減少したとの意見もある。
- ・文化芸術活動を地域活性化などに生かしていくための取組について、文化芸術を媒体に交流する機会を増やしていくことや、ミリカローデンでの那珂川らしさの追求が挙げられている。
- ・文化芸術政策への期待としては、プロを含めた文化芸術団体・作家との交流や文化芸術団体間の交流や、文化芸術活動への資金面での支援が挙げられている。

(3) 文化芸術以外の団体（3団体）

- ・市内の文化芸術活動は、南畑美術散歩や市民文化祭は知られているが、敷居が高い、分からないという意見もある。
- ・他団体との交流については、文化芸術団体と交流している団体がある一方、接点がないという団体もある。
- ・文化芸術政策に期待することとして、子どもの頃からの文化芸術に触れる機会の確保や、発表の場の確保、市民力の向上が挙げられた。

那珂川市の文化芸術に対する「問い」

文化芸術に鑑賞・活動する機会の創出

- 新** A 市民に感動を与えられる文化芸術の鑑賞機会はあるか？
- 市民の多くは福岡市など他市で文化芸術を鑑賞している(ア)
 - 市内の文化拠点はミリカローデンだが、市内の鑑賞環境への満足度は総じて低い傾向にある(ア)(ヒ)
 - 人口5万人の自治体&800席ホールでは、トップレベルのアーティスト公演は集客が難しい(ヒ)
 - トップレベルの文化芸術は「敷居が高い」と市民が認識(ヒ)

- B** まちなかで文化芸術に触れる機会はあるか？
- ミリカローデンへの交通アクセスは不便(ア)(ヒ)
 - 市内に市立公民館(4箇所)、自治公民館、ナカイチや那珂川北中(多目的ホール)等があるが、利用方法はバラバラ(ヒ)
 - 施設以外のまちなか(公園等)でのイベント等は少ない(ヒ)
 - 美術や文化財等に触れる機会は少ない(ヒ)
 - 南畑美術散歩を市民の多くが評価(ヒ)

- 新** C 子育てをしている方、働いている方、高齢者、障がい者、外国人等が文化芸術にアクセスできているか？
- 改正・文化芸術基本法では国民誰もが文化芸術にアクセスできることを求めている
 - 「仕事やその他の活動で時間がとれない」市民が多い(ア)
 - ナカイチでは文化芸術をキーワードに、人がつながり、新たな活動を創造する機会を創出している(ヒ)

- 新** D ウィズコロナ社会において文化芸術の鑑賞・活動機会はどうかあるべきか？
- 鑑賞・活動しなかった理由として、コロナ要因が多い(ア)
 - 文化芸術団体の意見でも、コロナ要因でこれまでの文化活動が実施できていない声がある(ヒ)
 - 文化芸術活動時のマスク着用問題が生じている(ヒ)
 - 直接鑑賞と比べて間接鑑賞のほうが多い内容もある(ア)

- 新** E 文化芸術に係る情報が市民に届いているか？
- 広報誌やミリカディアは全戸配布されているが、市民の多くが読んでいない可能性が高い(ヒ)
 - 文化芸術の鑑賞・活動に参加するきっかけは「口コミ」が多い(ア)
 - SNSの活用等が重要になっている(ヒ)

文化芸術活動環境の拡充

- F** 市内の担い手を育む文化活動をどう維持・拡充するか？
- 市内の文化団体は高齢化を主な要因に会員減少が進んでいる(ヒ)
 - 新規会員募集をめざす団体がある。一方、文化団体の新陳代謝がこれまでも繰り返されてきた(ヒ)
 - ミリカサークルや文化協会などがあるが、うまく連携・共創が行われていない可能性がある(ヒ)
 - 文化活動の発表を行う機会が少なく、市民文化祭等も関係者以外は来ていない(ヒ)

- 新** G 子どもが文化芸術に触れる機会はあるか？
- 回答者の約26%がファミリー世帯である(ア)
 - 子どもが文化芸術に触れる機会を求める回答が多い(ア)
 - 子ども対象の文化芸術活動や、学校でのアーティスト派遣が行われる一方、子どもたちが自由に文化芸術に触れられる機会の創出を求める意見もある(ヒ)
 - 休日の文化部活動の地域移行を検討する必要がある

- 新** H 芸術家や作家の活動をどのように支援していくべきか？
- 南畑を中心に、那珂川市の環境を気に入って移住・制作拠点とする芸術家・作家が一定数存在する(ヒ)
 - 南畑芸術散歩への評価は高いが、これ以上の集客は困難(キャパシティがない)(ヒ)
 - 芸術家や作家それぞれの考え方はバラバラである(ヒ)

- 新** I 学校や大学、企業、自治体との連携をどのように進めるか？
- 他市では連携が進んでいる
 - アンケートでは学校連携を期待する意見が多い(ア)
 - 他自治体の団体との交流を望む声もある(ヒ)

- 新** J ミリカローデンはどのような文化拠点をめざすべきか？
- 文化ホール・生涯学習施設・図書館等が複合していることが特徴。今後はカフェ等も新規導入予定(ヒ)
 - リニューアルにより、エントランス等で自習等する学生が増加(ヒ)
 - 800席のホールは利用者・観客ともに市内だけでなく市外からも多い(ヒ)
 - 中小ホールを求める意見、減免措置等を求める意見もある(ヒ)
 - 中間支援機能を求める意見が多い一方、職員確保・育成が課題(ヒ)
 - ミリカ以外の施設(公民館等)の利用ルールの不統一(ヒ)

文化芸術を活かし他分野への波及

- K** 文化財を生かした取組をどう推進していくか？
- 市内には文化財が豊富にあり、文化観光を求める意見もある(ヒ)

- L** 文化芸術活動を通じた他分野の連携にどう取り組むか？
- ミリカサークル等には「健康維持」を目的とした分類がある(ヒ)
 - 社会的処方考えでは、文化芸術活動を通じて社会的孤立を防ぎ、心の健康の回復につながる
 - 一方でアンケートでは、文化財の活用を求めつつも、観光に対する期待は少ない(ア)
 - 文化芸術との結び付きが強くなるとよい分野については「学校教育」「高齢者、障がい者福祉」「生涯学習」と答えた人が多い(ア)

- M** 文化芸術活動を通じた障がい者の社会的包摂に取り組むか？
- 国は「障がい者文化芸術推進法」等、障がい者の文化芸術活動への参加を促進
 - 市内でも障がい者が文化芸術に参加する機会があり、今後、ミリカローデンが活動を強化する予定がある(ヒ)

- 【凡例】
- 新 : 第1回審議会でも市が提示した課題以外の新規課題
 - (ア) : 市民意識調査(アンケート)で出た意見
 - (ヒ) : 文化芸術団体調査(ヒアリング)で出た意見

施策・事業の推進

- 新** 那珂川市の文化芸術の推進体制はどうかあるべきか？
- 主な主体として市、ミリカローデン(財団)、文化協会がある
 - ナカイチ、南畑など
 - 文化団体や活動等をつなぐ中間支援機能をどう確保・育成していくか
 - 文化芸術振興のための財源をどうするか？

(仮称) 那珂川市文化芸術振興計画のフレームワーク (案)

